千葉市へたの台貝塚 －宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－

2015

株式会社千葉東建設　公益財団法人千葉市教育振興財団

千葉市へたの台貝塚

－宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－

2015

株式会社千葉東建設
公益財団法人　千葉市教育振興財団

千葉市へたの台貝塚

－宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－

２０１５

株 式 会 社 千 葉 東 建 設
公益財団法人　千葉市教育振興財団

例言

1　本書は、千葉市中央区仁戸名町276-1他に所在するへたの台貝塚の宅地造成事業に伴う発掘調査報告書である。
2　発掘調査および整理作業は、株式会社千葉東建設の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施したものである。
3　発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。
・確認調査
期間：2011（平成23）年11月21日～11月28日
面積：75/773.06㎡　　担当者：湖口淳一
・本調査
期間：2014（平成26）年６月２日～2014（平成26）年７月４日　面積：220.207㎡　担当者：塚原勇人
4　整理および本書の製作・編集は、北田典子・佐藤瑤子・下田光・田中葉月の協力を得て、塚原と小林崚が担当して行った。
5　整理期間は、2014（平成26）年４月１日～2015（平成27）年２月28日にかけて、断続的に行った。
6　遺構・遺物の撮影は塚原・小林が行った。
7　本書の執筆は附編１を西野雅人が、それ以外を小林が執筆した。
8　出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
9　発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。
千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課
株式会社千葉東建設

凡例

1　本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
2　土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版　標準土色帖」による。
3　本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。
遺構実測図：1/40・1/60・1/80・1/600・1/1250
遺物実測図：土器1/4・1/3　石器・土製品：1/3
4　遺構・遺物の図面は Adobe Systems 社製 Adobe Illustrator で編集作業を行った。
5　遺構・遺物写真はフィルム・デジタルカメラで撮影し、Adobe Systems 社製 Adobe Photoshop で編集作業を行った。
6　第１図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図より作成したものである。
7　遺構配置図・遺物実測図では、各遺構を下記の通りの略称で表記している。
土坑＝土　竪穴住居跡＝住　ピット群＝ピテラス状遺構＝テ

目次

例言・凡例
目次
第１章　へたの台貝塚の概要 …… 1
　1　遺跡の位置及び周辺遺跡 …… 1
　2　過去の調査歴 …… 1
　3　調査の方法 …… 1
第２章　検出された遺構・遺物 …… 4
　1　縄文時代 …… 4
　2　古墳時代 …… 8
　3　古代 …… 17
　4　中世 …… 18
第３章　附編 …… 22
附編１　貝層と動物遺体 …… 22
附編２　へたの台貝塚平成８年度調査の概要 …… 26
第４章　まとめ …… 28
写真図版
抄録

表目次

第１表　第１号土坑出土遺物観察表 …… 5
第２表　縄文時代遺構外出土遺物観察表(1) …… 7
第３表　縄文時代遺構外出土遺物観察表(2) …… 8
第４表　第１号竪穴住居跡出土遺物観察表(1) …… 14
第５表　第１号竪穴住居跡出土遺物観察表(2) …… 15
第６表　第２号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 15
第７表　第３号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 16
第８表　第４号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 16
第９表　第５号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 16
第10表　古墳時代遺構外出土遺物観察表 …… 17
第11表　古代遺構外出土遺物観察表 …… 17
第12表　第１号テラス状遺構出土遺物観察表 …… 18
第13表　出土遺物集計表 …… 21

挿図目次

第１図　へたの台貝塚位置図 …… 2
第２図　へたの台貝塚遺構配置図 …… 2
第３図　過去の調査範囲 …… 3
第４図　第１・２号土坑平面図・土層断面図 …… 4
第５図　第１号土坑出土遺物実測図 …… 5
第６図　縄文時代遺構外出土遺物実測図(1) …… 5
第７図　縄文時代遺構外出土遺物実測図(2) …… 6
第８図　第１号竪穴住居跡平面図・土層断面図 …… 9
第９図　第１号竪穴住居跡土層断面図 …… 10
第10図　第１号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 10
第11図　第２号竪穴住居跡平面図・土層断面図 …… 11
第12図　第２号竪穴住居跡出土遺物実測図(1) …… 11
第13図　第２号竪穴住居跡出土遺物実測図(2) …… 12
第14図　第３号竪穴住居跡平面図・土層断面図 …… 12
第15図　第３号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 12
第16図　第４号竪穴住居跡平面図・土層断面図 …… 13
第17図　第４号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 13
第18図　第５号竪穴住居跡平面図・土層断面図 …… 14
第19図　第５号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 14
第20図　古墳時代遺構外出土遺物実測図 …… 16
第21図　古代遺構外出土遺物実測図 …… 17
第22図　第１号テラス状遺構出土遺物実測図 …… 18
第23図　第１号ピット群平面図・土層断面図 …… 19
第24図　第１号テラス状遺構平面図・土層断面図 …… 20

写真図版目次

図版１　調査前現況、第１号土坑全景、第１号土坑土層断面、第１号土坑貝検出状況、第２号土坑全景、第１号竪穴住居跡全景、第１号竪穴住居跡遺物出土状況、第２号竪穴住居跡全景

図版２　第２号竪穴住居跡カマド・貯蔵穴、第２号竪穴住居跡遺物出土状況１、第２号竪穴住居跡遺物出土状況２、第２号竪穴住居跡遺物出土状況３、第３号竪穴住居跡全景、第３号竪穴住居跡遺物出土状況１、第３号竪穴住居跡遺物出土状況２（鎌）、第４号竪穴住居跡全景

図版３　第５号竪穴住居跡全景、第１号ピット群全景１、第１号ピット群全景２、第１号テラス状遺構全景（第１調査区）１、第１号テラス状遺構全景（第１調査区）２、第１号テラス状遺構全景（第２調査区）、第１号テラス状遺構ピット（第２調査区）、調査終了状況

図版４　縄文時代遺構外出土遺物

図版５　縄文時代遺構外出土遺物、第１号竪穴住居跡出土遺物、

図版６　第１号竪穴住居跡出土遺物、第２号竪穴住居跡出土遺物

図版７　第３号竪穴住居跡出土遺物、第４号竪穴住居跡出土遺物、第５号竪穴住居跡出土遺物、古墳時代遺構外出土遺物、古代遺構外出土遺物、１号テラス状遺構出土遺物

第１章　へたの台貝塚の概要

１　遺跡の位置及び周辺遺跡（第１図）

へたの台貝塚は、千葉市を流れる都川の河口付近より東南に向って開析される仁戸名支谷中流部の台地上に位置し、標高約25mを測る台地上に位置している。本遺跡の周辺には国指定史跡の月ノ木貝塚をはじめ、多くの遺跡が確認されている。縄文時代の遺跡としては、周囲に縄文中・後期の月ノ木貝塚・大宮戸貝塚・道免貝塚・高崎台貝塚などの貝塚が所在している。弥生時代は、星久喜遺跡や城の腰遺跡で確認され、弥生時代中期後半～後期にかけて比較的大規模な集落が営まれている。古墳時代も周辺の土地利用は活発であったようで、前期においては前述の星久喜遺跡や城の腰遺跡で集落・墓域が営まれ、手焙形土器やタタキ甕など、外来的な遺物も出土している。後期になると、集落の他にも古墳群が営まれ、調査区西部にはへたの台古墳群が所在し、その他にも聖人塚古墳が確認され、いずれも後期古墳と考えられる。中世では城の腰遺跡を始め、城館跡が検出されている。

２　過去の調査歴（第３図）

へたの台貝塚は過去に幾度かの調査が行われている。昭和44年度の調査では、古墳時代後期と考えられる古墳群と住居跡が調査されている。昭和63年度の調査では、縄文時代中期後葉の竪穴状遺構・土坑、古墳時代後期の住居跡が検出され、その後の平成３・４・18・23年度の調査でも、縄文時代の土坑・古墳時代後期の住居跡が検出されている。縄文時代の遺構は中期中葉～後葉が主体で、遺構外から出土する遺物も同時期であり、へたの台貝塚の形成が中期中葉～後葉に主体があったことが分かる。僅かではあるが平成23年度の調査では縄文時代晩期の遺物が出土しており、注目される。古墳時代の住居跡は後期が主体であるが、平成８年度の調査ではカマドではなく地床炉の住居が検出されている。また、縄文時代中期中葉の土坑が検出され、土坑内から埋葬人骨が出土している（附編２参照）。

３　調査の方法（第２図）

発掘調査では、調査区内に平成25年度に実施された確認調査の際のグリッドをもとにグリッドを設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、このグリッドを基準として行った。グリッドは、10m単位とし、南北方向はアルファベットの大文字で、東西方向は算用数字で表記した。このグリッドの中はさらに５m単位の方眼に分割し、これにａ～ｄの記号をつけ（例：５Ｅ－ａ）、北西部の杭をグリッド杭とした。

参考文献

大賀健ほか2007『千葉市へたの台貝塚－平成18年度発掘調査－』有限会社友起創業・千葉市教育委員会

湖口淳一・田中英世・古谷渉2012『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成23年度－』千葉市教育委員会

後藤和民1971「千葉市仁戸名町　へたの台古墳群発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第４号　千葉市加曽利貝塚博物館

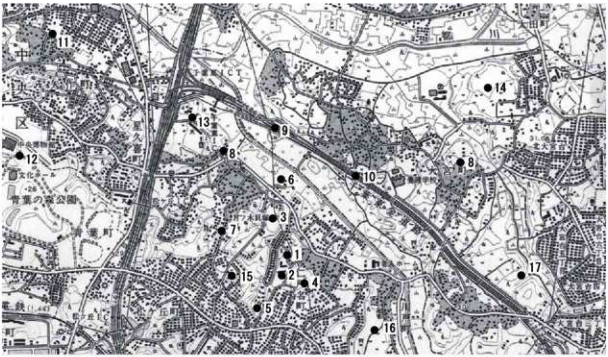
財団法人千葉市文化財調査協会1993『財団法人千葉市文化財調査協会年報５－平成３年度－』

白根義久1993『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成４年度－』千葉市教育委員会

田中英世1990『千葉市へたの台貝塚』千葉市教育委員会

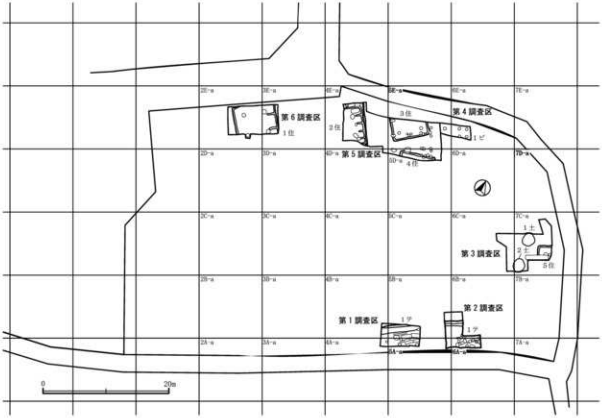
寺門義範1991『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成２年度－』千葉市教育委員会

山下亮介2007『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成18年度－』千葉市教育委員会

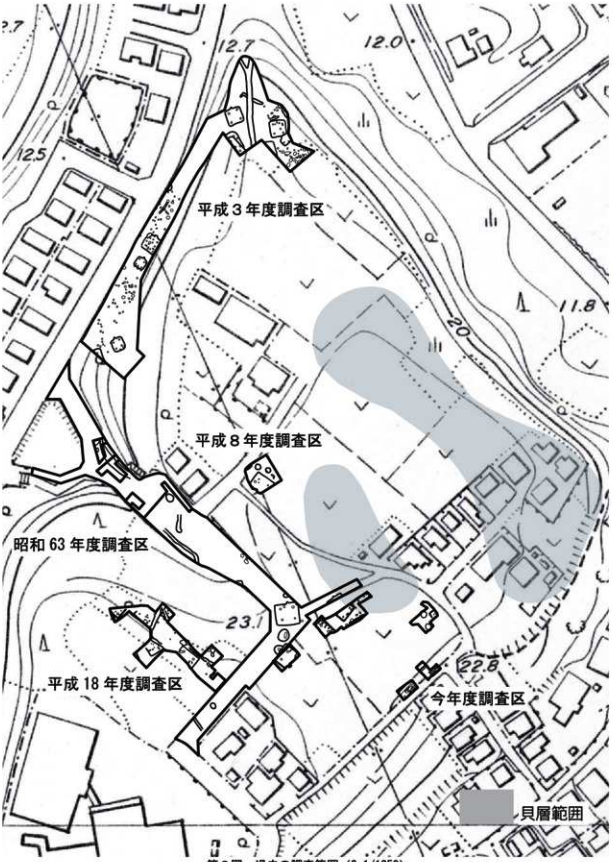


1：へたの台遺跡　2：へたの台古墳群　3：月ノ木貝塚　4：作山古墳群　5：聖人塚古墳　6：道免遺跡
7：取林遺跡　8：高崎台貝塚　9：城の腰遺跡　10：西屋敷遺跡　11：矢作貝塚　12：荒久遺跡
13：星久喜遺跡　14：滝の台貝塚　15：星久喜台遺跡　16：大宮戸遺跡　17：東五郎遺跡

第１図　へたの台貝塚位置図（S=1/25000）



第２図　へたの台貝塚遺構配置図（S=1/600）



第３図　過去の調査範囲（S=1/1250）

第２章　検出された遺構・遺物

１　縄文時代（第１～３表・第４～７図）

（１）概要

遺構は、加曽利ＥⅠ～Ⅱ式期の土坑１基、縄文時代中期の土坑１基の計２基が検出された。遺物の総数は集計表（第13表）に記載した。

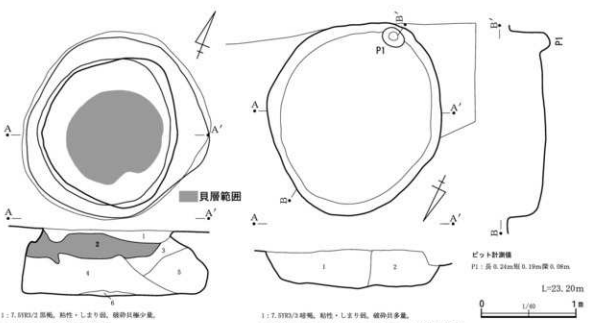
（２）土坑

第１号土坑（第１表、第４・５図）

位置：７Ｃグリッド。重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.95m、短軸1.82m、深さ0.70m。主軸N-19°-E。構造：底面は平坦で、上端は削平されていると考えられる。断面形はフラスコ状を呈す。３～６層は人為的な埋戻しと考えられ、その上面からイボキサゴ・ハマグリ主体の貝層が検出された。貝種の組成等については附編で詳述する。遺物：遺物はほとんどが貝層中から出土しており、縄文時代の遺物は土器17点、黒曜石の石核１点、古代の遺物１点で合計19点を数える。時期：出土遺物から加曽利ＥⅠ～Ⅱ式期。

第２号土坑（第４図）

位置：６Ｃ～７Ｃグリッド。重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸2.12m、短軸1.84m、深さ0.42m。主軸N－５°-W。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。底面からピットが１基検出された。遺物：なし。時期：平面形態及び覆土から縄文時代中期。



第４図　第１・２号土坑平面図・土層断面図

第５図　第１号土坑出土遺物実測図

第１表　第１号土坑出土遺物観察表

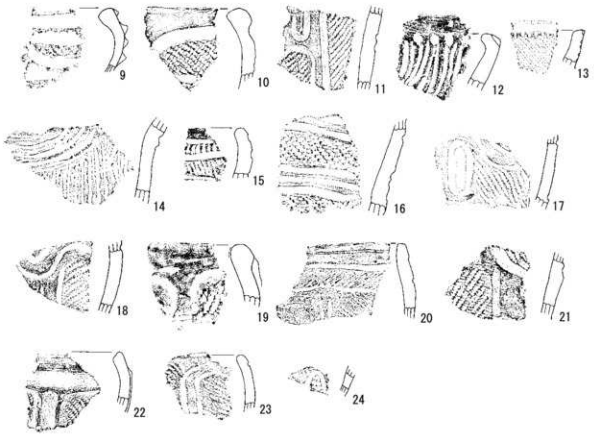
遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.4〉	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面はナデ、沈線が3条確認される。阿玉台式後半・勝坂式～加曽利E Ⅰ式古。	白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
2	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.0〉	口縁部片。内面ナデ。隆帯に一部沈線を沿わせ、隆帯内に原体単節縄文LRを施す。一部ナデ消える。加曽利E Ⅰ式。	白色粒少量。	外面：5YR5/4 内面：10YR4/1	良好
3	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.1〉	胴部片。内面ナデ。外面上部は交互刺突、その下部に沈線を施し、下部は原体単節縄文LRを施す。部分的にナデ消えている。加曽利E Ⅰ～Ⅱ式。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
4	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.6〉	胴部片。内面ナデ。外面磨消縄文原体単節RLを沈線で区画。加曽利E Ⅱ式。	白色粒少量。	外面：10YR6/2 内面：2.5Y6/2	良好
5	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.1〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面磨消縄文原体単節LRを沈線で区画。加曽利E Ⅱ式。	白色粒微量。	外面：10YR6/2 内面：10YR4/1	良好
6	石核	長さ3.4cm、幅3.5cm、厚さ2.3cm、重量25.5g　黒曜石。				

（３）遺構外出土遺物（第２・３表、第６・７図）

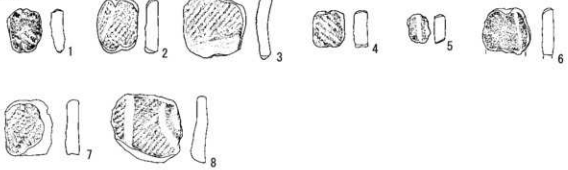
各遺構の覆土及び調査区内から多量の縄文時代の遺物が出土している。これらの遺物はへたの台貝塚から流出したものと考えられる。出土した縄文時代の遺物は総計2593点で、土器以外にも石器として磨石・磨製石斧・黒曜石剥片、土製品として土器片錘・土器片円盤が出土している。遺物の時期幅は阿玉台式後半・勝坂～加曽利EⅢ式までが見られるが、時期が判断できるもので最も数が多いのは加曽利EⅡ式期であり、貝塚の形成もこの時期に最も盛んになっていたと考えられる。

土器

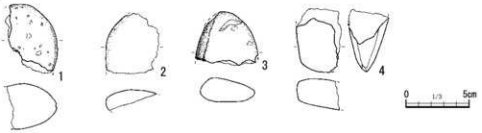
第６図　縄文時代遺構外出土遺物実測図（１）



土製品



石器



第７図　縄文時代遺構外出土遺物実測図（２）

第２表　縄文時代遺構外出土遺物観察表（１）

土器						
遺物番号	種類器種	口径底径器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.0〉	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面隆帯に沿わせ爪形文を施し、隆帯に棒状工具による押捺が施される。阿玉台式後半～加曽利E Ⅰ式古。第6調査区出土。	石英微量・白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/4	良好
2	縄文土器 深鉢	－ － 〈7.5〉	口縁部片。内面縦横のヘラミガキ。外面上部横位のヘラミガキ、下部は横位に隆帯を施し、隆帯上には原体単節縄文RLを押捺する。縦に隆帯を垂下させ、区画内に原体単節縄文LRを施文する。阿玉台式後半～加曽利E Ⅰ式古。第4号住居跡出土。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/2 内面：7.5YR5/2	良好
3	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.0〉	胴部片。内面ナデ。隆帯により楕円文を描出し、内部に原体単節縄文LRを施す。阿玉台式後半～加曽利E Ⅰ式古。第2号住居跡出土。	白色粒微量・礫少量・雲母多量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/4	良好
4	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.5〉	胴部片。内面ナデ。沈線を沿わせた隆帯で文様を描出する。内部は原体単節縄文LRを施す。阿玉台式後半～加曽利E Ⅰ式古。第1号住居跡出土。	白色粒・礫中量・雲母多量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/2	良好
5	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.3〉	胴部片。内面横位のヘラミガキ。隆帯及び沈線で渦巻文を描出する。原体単節縄文LRが施される。加曽利E Ⅰ式。6D-eグリッド出土。	石英・白色粒微量。	外面：10YR6/2 内面：10YR5/4	良好
6	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.0〉	胴部片。内面横位のヘラミガキ。上部は沈線で区画され、交互刺突が施される。下部は原体単節縄文RLを施した後、蛇行する沈線を垂下させる。加曽利E Ⅰ式。第2号住居跡出土。	石英少量・白色粒中量。	外面：7.5YR5/2 内面：7.5YR4/1	良好
7	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.7〉	口縁部片。内面ナデ。外面は隆帯で楕円文を描出し、隆帯上に原体単節縄文RLが施される。波状口縁。加曽利E Ⅱ式。第4号住居跡出土。	赤褐色粒・石英・白色粒少量。	外面：10YR6/2 内面：10YR5/1	良好
8	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.2〉	口縁部片。内面横位のヘラケズリ。外面は隆帯を貼り付け、沈線で渦巻文と楕円文を施す。口唇部及び下部に沈線が施される。加曽利E Ⅱ式。第2号住居跡出土。	石英中量、白色粒多量。	外面：10YR4/2 内面：10YR5/2	良好
9	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.1〉	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は隆帯により楕円文を描出し、隆帯上に原体単節縄文RLが施される。加曽利E Ⅱ式。第2号住居跡出土。	礫微量・石英中量。	外面：5YR4/3 内面：7.5YR5/3	良好
10	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.6〉	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は楕円文を沈線で区画し、内部に原体単節縄文RLが施される。加曽利E Ⅱ式。第2号住居跡出土。	白色粒微量・石英中量。	外面：10YR4/1 内面：10YR4/1	良好
11	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.8〉	胴部片。内面縦位のヘラミガキ。外面は磨消縄文（原体単節縄文LR）を沈線で区画し、沈線で文様を描出する。加曽利E Ⅱ式。第4号住居跡出土。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/4 内面：10YR4/1	良好
12	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.5〉	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は沈線を斜位に施し、口唇部に押捺が施される。曽利式系（加曽利E Ⅱ式期）。第3号住居跡出土。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR3/1 内面：7.5YR4/1	良好
13	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.0〉	口縁部片。内面ナデ。外面は2本1組の工具により沈線が施され、口唇部には刻みが施される。曽利式系（加曽利E Ⅱ式期）。第5調査区出土。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR6/3	良好
14	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.8〉	胴部片。内面ナデ。外面は2本1組の工具で弧状の文様が施された後、直線状の文様が施される。曽利式系（加曽利E Ⅱ式期）。第1号テラス出土。	石英微量・白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR7/2	良好
15	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.0〉	口縁部片。内面ナデ及び横位のヘラミガキ。外面は撚糸文（R）を施した後、3条の沈線が施される。連弧文系（加曽利E Ⅱ式期）。第2号住居跡出土。	石英微量・白色粒少量。	外面：7.5YR4/6 内面：7.5YR4/6	良好
16	縄文土器 深鉢	－ － 〈7.7〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は原体単節縄文RLを施文した後に、5条の沈線で磨り消している。外面にはススが付着している。連弧文系（加曽利E Ⅱ式期）。6D-eグリッド出土。	石英・白色粒少量。	外面：10YR4/2 内面：7.5YR4/3	良好
17	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.9〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は原体単節縄文RLを施文した後に、沈線により弧状文・楕円文を施す。連弧文系（加曽利E Ⅱ式期）。6D-eグリッド出土。	赤褐色粒微量・白色粒少量・石英中量。	外面：10YR6/3 内面：7.5YR5/4	良好
18	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.9〉	胴部片。内面ナデ。外面は磨消縄文（原体単節縄文LR）を沈線で区画し、沈線で文様を描出する。連弧文系（加曽利E Ⅱ式期）。第2号住居跡出土。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR6/3 内面：10YR6/2	良好
19	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.0〉	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は隆帯で楕円文を作出し、内部に原体単節縄文（LR）を施す。加曽利E Ⅱ～Ⅲ式。第1号テラス出土。	石英・白色粒少量。	外面：10YR6/3 内面：7.5YR6/4	良好
20	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.0〉	口縁部片。内面ナデ。外面は付加条1種縄文（単節・無節）を羽状に施した後、沈線で文様が描出される。一部ナデ消えている。加曽利E Ⅱ～Ⅲ式。第4号住居跡出土。	礫・白色粒微量・石英中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
21	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.4〉	胴部片。内面ナデ。外面上部は原体単節縄文RLを沈線による楕円文で区画する。下部は磨消縄文（単節LR）を沈線で区画する。加曽利E Ⅱ～Ⅲ式。第1号住居跡出土。	石英・白色粒・赤褐色粒微量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好

第３表　縄文時代遺構外出土遺物観察表（２）

22	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.8〉	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は磨消縄文（単節RL）を微隆起線で区画し、文様を描出する。加曽利E Ⅲ式。意匠文様充填系。第4号住居跡出土。	白色粒少量。	外面：10YR2/1 内面：10YR2/1	良好
23	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.5〉	口縁部片。内面横位のヘラミガキ。外面は原体無節縄文8を施し、沈線で文様が描出される。加曽利E Ⅲ式。横位連携弧線文系。第2号住居跡出土。	石英少量・白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR4/1	良好
24	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.4〉	胴部片。内面横位のヘラミガキ。外面は沈線で文様が描出される。加曽利E Ⅲ式。横位連携弧線文系。60-cグリッド出土。	白色粒少量。	外面：10YR2/1 内面：10YR5/2	良好
土製品						
1	土製品 土器片錘	完形。長さ3.4cm・幅2.7cm・厚さ1.0cm・重量10.8g。全体的に摩耗している。第1号住居跡出土。			2.5YR5/8	良好
2	土製品 土器片錘	完形。長さ4.3cm・幅3.2cm・厚さ1.0cm・重量20.7g。第2号住居跡出土。			5YR4/2	良好
3	土製品 土器片錘	完形。長さ5.1cm・幅4.9cm・厚さ1.0cm・重量29.8g。第1号住居跡出土。			10YR5/3	良好
4	土製品 土器片錘	完形。長さ2.9cm・幅2.5cm・厚さ1.0cm・重量11.8g。第5調査区出土。			5YR5/4	良好
5	土製品 土器片錘	完形。長さ2.3cm・幅1.8cm・厚さ0.8cm・重量3.9g。第1号住居跡出土。			7.5YR4/2	良好
6	土製品 土器片錘	一部欠損。長さ〈3.7〉cm・幅3.8cm・厚さ0.9cm・重量16.7g。第1号住居跡出土。			10YR6/3	良好
7	土製品 土器片円盤	一部欠損。長さ4.4cm・幅4.7cm・厚さ1.0cm・重量24.3g。第2号住居跡出土。			10YR5/2	良好
8	土製品 土器片円盤	完形。長さ5.4cm・幅5.6cm・厚さ1.1cm・重量37.4g。第3号住居跡出土。			7.5YR4/3	良好
石器						
1	石器 磨石	破片。長さ〈5.4cm〉・幅〈4.1cm〉・厚さ3.6cm・重量96.8g。右側縁に使用痕が見られる。第5号住居跡出土。				
2	石器 磨石	破片。長さ〈4.8cm〉・幅〈4.0cm〉・厚さ〈1.1cm〉・重量34.0g。使用痕は明瞭ではない。第3号住居跡出土。				
3	石器 磨石	破片。長さ〈4.2cm〉・幅4.3cm・厚さ1.9cm・重量50.9g。左側縁に使用痕が見られる。第1号住居跡出土。				
4	石器 磨製石斧	破片。長さ〈5.0cm〉・幅〈3.5cm〉・厚さ2.3cm・重量67.1g。第1号テラス出土。				

２　古墳時代（第４～10表・第８～20図）

（１）概要

古墳時代後期の住居跡が５軒検出され、遺構の密度は高い。今回調査した住居跡はいずれも古墳時代後期のTK10～TK43型式期と考えられるが、僅かではあるが調査区から古墳時代中期と考えられる高坏や滑石製模造品の有孔円盤も出土し、平成８年度の調査では地床炉の住居跡も検出されていることから、古墳時代中期の住居跡も展開する可能性がある。遺物の総数は集計表（第13表）に記載した。

（２）竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡（第４・５表、第８～10図）

位置：２Ｅ～３Ｅグリッド。重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸5.25m以上、短軸6.68m、深さ0.47m。主軸N-39°-W。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は全周し、深さは0.06mを測る。ピットは４基確認される。住居東側に間仕切り溝が検出され、中央部からは硬化面が検出された。部分的に炭化材も検出されている。この竪穴住居跡は昭和63年度調査の第１号竪穴住居跡にあたり、その際の調査で北壁からカマドが検出されている。遺物：縄文時代の遺物290点、古墳時代後期の遺物584点、中・近世の遺物７点、時期不明の遺物95点で総計976点を数える。第10図４・６は床面からの出土であるが、古墳時代後期の遺物はほぼ覆土中

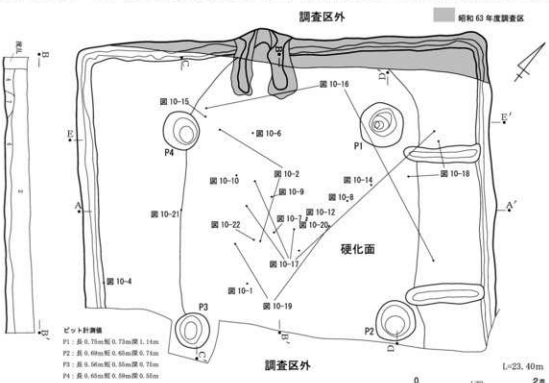
からの出土で、竪穴住居跡全体から出土している。時期：出土遺物から古墳時代後期、TK10型式期。

第２号竪穴住居跡（第６表、第11～13図）

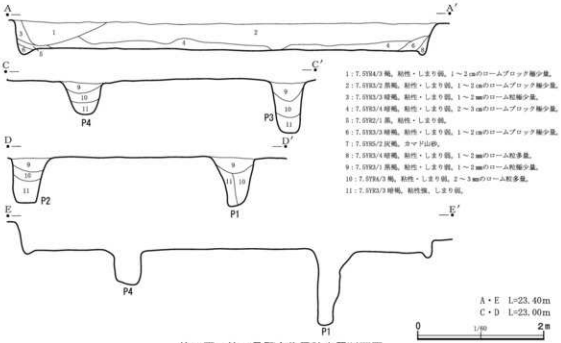
位置：４Ｅグリッド。重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸6.30m以上、短軸3.64m以上、深さ0.63m。主軸N−42°−W。構造:床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。調査範囲では壁溝は全周し、深さは0.13mを測る。ピットは４基、貯蔵穴は２基、間仕切り溝は５条検出された。この竪穴住居跡は建て替えが行われたと考えられ、旧住居のカマドは確認されないが、新住居のカマドが北壁から検出された。貯蔵穴１とＰ１・２は旧住居に伴うものと考えられ、貯蔵穴２とＰ３・４が新住居に伴うものと判断した。旧住居のピットも抜き取った痕跡が確認され、合計３度の建て替えが考えられる。床面付近からは焼土及び炭化物が部分的に検出されている。遺物:縄文時代の遺物443点、古墳時代中期の遺物２点、古墳時代後期の遺物561点、時期不明の遺物15点で総計1021点を数える。古墳時代後期の遺物は第12図２・４が床面、５がカマドから出土し、その他は覆土中からの出土である。遺物は竪穴住居跡全体から出土している。時期：出土遺物から古墳時代後期、MT85～ TK43型式期。

第３号竪穴住居跡（第７表、第14・15図）

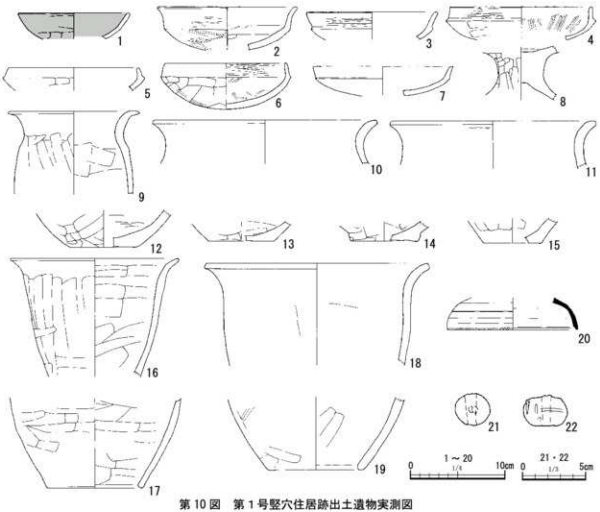
位置：５Ｅグリッド。重複関係：第１号ピット群に一部を切られ、一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸5.85m以上、短軸5.84m、深さ0.31m。主軸N−42°−W。構造：床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。調査範囲では壁溝は全周し、深さは0.06mを測る。ピットは３基検出され、一部から焼土が検出された。この竪穴住居跡は昭和63年度調査の第３号竪穴住居跡にあたり、その際の調査で北壁にカマドが検出され、貯蔵穴及びピットも検出されている。遺物：縄文時代の遺物386



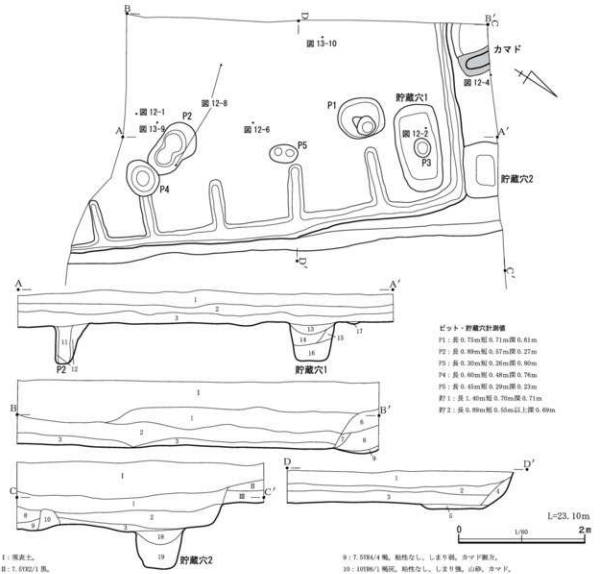
第８図　第１号竪穴住居跡平面図・土層断面図



第９図　第１号竪穴住居跡土層断面図

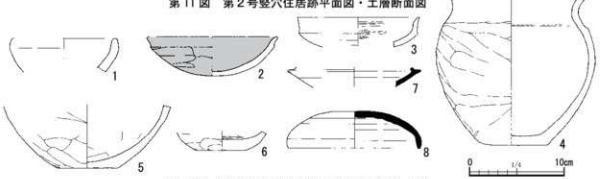


第 10 図　第１号竪穴住居跡出土遺物実測図



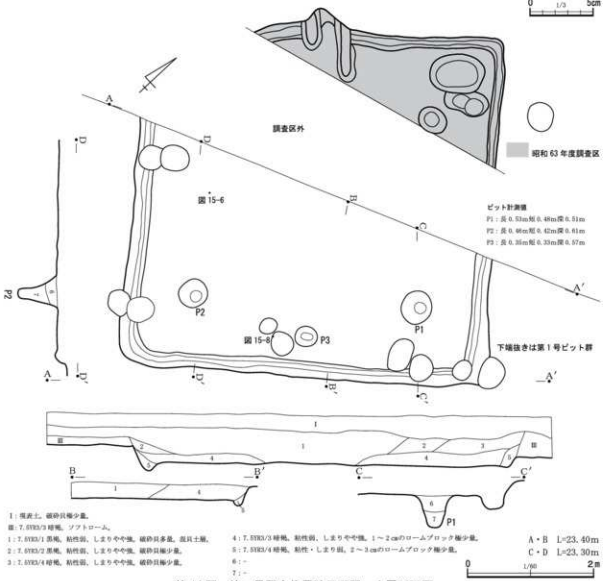
Ⅰ：現表土。
Ⅱ：7.5YR2/1 黒。
Ⅲ：7.5YR5/8 明褐。ソフトローム。
1：7.5YR3/1 黒褐。粘性・しまり弱。2～3mmのローム粒多量。
2：7.5YR3/2 黒褐。粘性・しまり弱。1～2cmのロームブロック極少量。
3：7.5YR3/3 暗褐。粘性・しまり弱。1～2cmのロームブロック極少量。焼土ブロック・炭化物多量。
4：7.5YR3/4 暗褐。粘性・しまり弱。2～3cmのロームブロック多量。
5：7.5YR3/2 黒褐。粘性・しまり弱。
6：10YR3/1 黒褐。粘性弱。しまりやや強。山砂混じる。2～3mmの粒土粒極少量。
7：10YR3/3 暗褐。粘性弱。しまりやや強。山砂混じる。2～3mmの粒土粒極少量。
8：10YR2/2 黒褐。粘性・しまり弱。1～2cmの焼土ブロック極少量。
9：7.5YR4/4 褐。粘性なし。しまり弱。カマド崩壊。
10：10YR6/1 褐灰。粘性なし。しまり強。山砂。カマド。
11：7.5YR2/2 黒褐。粘性・しまり弱。粒状。
12：7.5YR4/4 褐。粘性弱。しまりやや弱。2～3cmのロームブロック主体。
13：7.5YR3/3 暗褐。粘性・しまり弱。1～2cmのロームブロック少量。
14：7.5YR3/2 黒褐。粘性・しまり弱。2～3mmのローム粒少量。
15：7.5YR3/4 暗褐。粘性・しまり弱。2～3mmのローム粒多量。
16：－
17：－
18：7.5YR3/1 黒褐。粘性・しまり弱。2～3mmのローム粒少量。
19：7.5YR3/3 暗褐。粘性やや強・しまり弱。1～2cmの炭化物少量。

第 11 図　第２号竪穴住居跡平面図・土層断面図

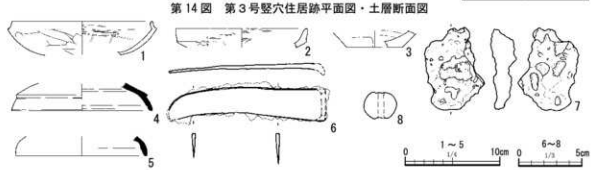


第 12 図　第２号竪穴住居跡出土遺物実測図（１）

第 13 図　第２号竪穴住居跡出土遺物実測図（２）



第 14 図　第３号竪穴住居跡平面図・土層断面図

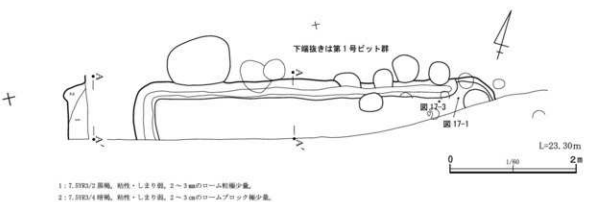


第 15 図　第３号竪穴住居跡出土遺物実測図

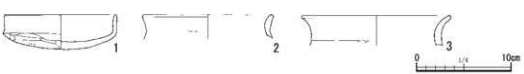
点、古墳時代後期の遺物171点、古代の遺物３点、中・近世の遺物１点、時期不明の遺物２点で総計563点を数える。古墳時代後期の遺物は第15図-６が床面付近から出土し、その他は覆土中からの出土で、竪穴住居跡全体から出土し、細片で占められている。図示したものも含め、この竪穴住居跡は鉄滓が出土している。時期：出土遺物から古墳時代後期、MT85～TK43型式期。

第４号竪穴住居跡（第８表、第16・17図）

位置：５Ｄグリッド。重複関係：第１号ピット群に一部を切られ、一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸5.65m以上、短軸0.93m以上、深さ0.36m。主軸Ｎ-86°-Ｅ。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は一部で途切れ、深さは0.05mを測る。調査範囲ではピットや貯蔵穴などは検出されていない。遺物：縄文時代の遺物249点、古墳時代後期の遺物49点、時期不明の遺物２点で総計300点を数える。古墳時代後期の遺物は第17図-３が床面付近から出土し、その他は覆土中からの出土で、竪穴住居跡全体から出土し、細片で占められている。時期：決め手に欠けるが、無彩の坏が混じることから、第２・３号竪穴住居跡とほぼ同時期と考えられる。



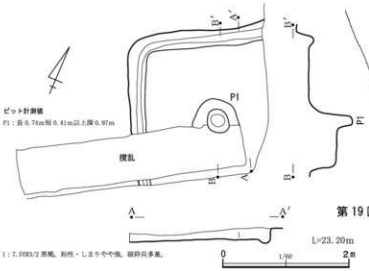
第 16 図　第４号竪穴住居跡平面図・土層断面図



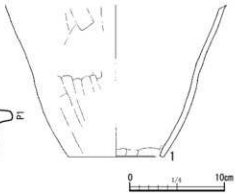
第 17 図　第４号竪穴住居跡出土遺物実測図

第５号竪穴住居跡（第９表、第18・19図）

位置：７Ｃグリッド。重複関係：撹乱によって一部を破壊され、一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸2.39m以上、短軸2.18m以上、深さ0.23m。主軸Ｎ-26°-Ｗ。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は調査範囲では全周し、深さは0.05mを測る。ピットは１基検出された。遺物：縄文時代の遺物30点、古墳時代後期の遺物16点で総計46点を数える。古墳時代後期の遺物は第19図-１が床面付近から出土し、その他も床面付近からの出土で、ピット付近から出土し、細片で占められている。時期：出土遺物から古墳時代後期。



第18図　第５号竪穴住居跡平面図・土層断面図



第19図　第５号竪穴住居跡出土遺物実測図

第４表　第１号竪穴住居跡出土遺物観察表（１）

遺物番号	種類器種	口径底径器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土師器坏	(11.7) － 〈2.8〉	口縁部～体部片。内外面共にヘラケズリの後ミガキ。内外面共に赤彩。	石英・白色粒微量。	外面：2.5YR3/6 内面：2.5YR3/6	良好
2	土師器坏	(14.8) － 〈4.6〉	1/2残存。内面ヘラケズリ後ミガキ、縁が作出される。口縁部内外面共にナデの後ヘラミガキ。外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。	白色粒少量・石英多量。	外面：5YR4/4 内面：5YR4/4	良好
3	土師器坏	(16.8) － 〈2.9〉	口縁部～体部片。内面ナデの後ミガキ。口縁部外面ナデの後ヘラミガキ。外面ヘラケズリ後ミガキ。	白色粒多量。	外面：7.5YR4/3 内面：5YR5/4	良好
4	土師器坏	(15.1) － 〈3.5〉	口縁部～体部片。内面及び口縁部ナデの後ヘラミガキ。外面ヘラケズリの後ミガキ。	礫・赤褐色粒微量・白色粒少量・石英中量。	外面：7.5YR4/2 内面：7.5YR4/2	良好
5	土師器坏	(13.9) － 〈2.5〉	口縁部～体部片。内面及び口縁部ヨコナデの後ミガキ。外面ヘラケズリの後ミガキ。	石英・白色粒微量。	外面：5YR4/4 内面：5YR4/4	良好
6	土師器坏	(13.0) － 4.9	2/3残存。内面ナデの後ヘラミガキ。口縁部内外面共にヘラミガキ。外面ヘラケズリの後一部ヘラミガキ。	石英少量・白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：7.5YR5/3	良好
7	土師器坏	(15.0) － 〈3.1〉	1/2残存。内面丁寧なミガキ、一部摩耗。口縁部外面ヨコナデの後ミガキ。外面ヘラケズリの後ミガキ。外面にススが付着し、全体的に摩耗しており調整が不明瞭である。	白色粒微量・赤褐色粒少量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/3	良好
8	土師器高坏	－ － 〈5.7〉	脚部片。坏部内面ヘラナデ、脚部内面ナデ。外面はヘラケズリの後一部ミガキ。	礫少量・石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/4 内面：5YR5/4	良好
9	土師器甕	(13.6) － 〈8.9〉	口縁部～胴部1/5残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ヘラナデ。	礫微量・白色粒・石英少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR5/4	良好
10	土師器甕	(23.6) － 〈4.7〉	口縁部片。内外面共にヨコナデ。外面にススが付着している。	石英・白色粒中量。	外面：10YR3/1 内面：10YR3/6	良好
11	土師器甕	(21.6) － 〈5.1〉	口縁部片。内外面共にヨコナデの後ヘラミガキ。一部に輪積み痕が残る。	礫微量・石英・白色粒中量。	外面：10YR6/3 内面：7.5YR6/4	良好
12	土師器甕	(7.0) － 〈4.0〉	底部1/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	白色粒少量・石英中量。	外面：7.5YR4/3 内面：5YR4/6	良好
13	土師器甕	－ (7.0) 〈2.1〉	底部1/2残存。内面ヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	礫少量・石英多量。	外面：7.5YR4/2 内面：7.5YR4/3	良好

第５表　第１号竪穴住居跡出土遺物観察表（２）

14	土師器 甕	– (7.0) 〈2.1〉	底部1/2残存。内面ヘラナデ、外面及び底部ヘラケズリ。	石英少量・白色粒中量。	外面：7.5YR4/3 内面：7.5YR4/3	良好
15	土師器 甕	(6.0) 〈2.7〉	底部1/3残存。内面ヘラナデ、外面及び底部ヘラケズリ。	白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
16	土師器 甑	(17.8) – 〈12.7〉	口縁部～胴部1/4残存。内面ヘラケズリの後ミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ、外面ヘラケズリ後一部ナデ。17と同一個体か。	石英・白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
17	土師器 甑	(10.0) 〈9.6〉	胴部～底部1/4残存。内面ヘラケズリの後ミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ。下端ヘラケズリ。16と同一個体か。	微微量・石英・白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
18	土師器 甑	(23.6) – 〈10.9〉	口縁部～胴部1/6残存。内面ヘラケズリの後ミガキ。口縁部内面ヨコナデ、外面ヘラケズリ、摩耗のため調整不明瞭。19と同一個体。	石英・白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
19	土師器 甑	– (10.0) 〈7.8〉	胴部下半～底部1/4残存。内面ヘラケズリの後ミガキ。外面ヘラケズリ一部ヘラミガキ。底部ヘラケズリ、摩耗のため調整不明瞭。18と同一個体。	石英・白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/4	良好
20	須恵器 坏蓋	(13.7) – 〈3.5〉	1/6残存。外面上端回転ヘラケズリ、他はロクロナデ。口唇部に細かい刻みが施される。外面一部に自然釉付着。TK10型式。	長石少量。	外面：N4/ 内面：7.5YR6/1	良好
21	土製品 土玉	完形。長さ2.4cm、幅2.8cm、孔径1.0cm、重量17.1g。ナデにより調整される。		白色粒微量。	10YR6/3	良好
22	土製品 土玉	ほぼ完形。長さ2.4cm、幅3.4cm、孔径0.7cm、重量20.5g。ナデ及び雑なヘラミガキ。一部剥落する。		白色粒微量。	7.5YR4/2	良好

第６表　第２号竪穴住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土師器 坏	(11.0) – 〈3.6〉	口縁部～体部片。内面ナデ及びミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。	白色粒少量・石英中量。	外面：5YR4/6 内面：7.5YR4/6	良好
2	土師器 坏	13.8 – 4.2	ほぼ完形。内面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。口縁部外面ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内外面赤彩。	微微量・白色粒少量・石英中量。	外面：2.5YR3/6 内面：10R4/6	良好
3	土師器 坏	(13.0) – 〈3.2〉	口縁部～体部片。内面～口縁部外面ヘラミガキ。外面ヘラケズリの後ミガキ。	白色粒微量。	外面：10YR2/1 内面：10YR3/2	良好
4	土師器 甕	14.3 16.6 5.9	完形。内面ナデ、口縁部内外面共にヨコナデ。外面～底部ヘラケズリ後ナデ。口縁部内面に1条の沈線が確認される。	白色粒少量。	外面：2.5YR4/6 内面：2.5YR4/6	良好
5	土師器 甕	– 6.2 〈6.8〉	胴部～底部片。内面ヘラナデ及びナデ。外面～底部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。	石英少量・白色粒中量。	外面：5YR3/6 内面：7.5YR3/4	良好
6	土師器 甕	5.4 〈2.1〉	底部片。内面ヘラケズリ及びナデ。外面～底部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内外面共にスス付着。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR4/4 内面：5YR4/6	良好
7	須恵器 坏身	– – 〈2.1〉	体部片。内外面共にロクロナデ。	白色粒微量。	外面：5Y6/1 内面：2.5Y5/1	良好
8	須恵器 坏蓋	(14.0) – 〈4.0〉	1/3残存。内外面共にロクロナデ。外面上部回転ヘラケズリ。外面上部にヘラ記号が確認される。外面に一部自然釉が付着している。	長石・白色粒少量。	外面：5Y5/1 内面：N5/0	良好
9	須恵器 坏蓋	(14.0) – 〈3.6〉	口縁部～体部片。内外面共にロクロナデ、外面上部は回転ヘラケズリ。口唇部に刻みが確認される。	長石・白色粒少量。	外面：7.5Y6/1 内面：7.5Y6/1	良好
10	須恵器 甕	– – 〈4.6〉	胴部片。内面青海波、内外面共に上部はロクロナデ。外面平行タタキ。外面に自然釉が付着している。	長石・白色粒少量。	外面：5P3/1 内面：N4/0	良好
11	土製品 管状土錘	1/2残存。長さ〈3.0cm〉、幅1.8cm、厚さ1.6cm、孔径0.6cm、重量7.6g。ナデにより調整される。		白色粒微量・石英少量。	7.5Y2/1	良好
12	土製品 手捏ね	(4.0) 1.8 (3.0)	1/2残存。内外面共に指頭によるナデ。	石英少量・白色粒中量。	外面：7.5YR5/8 内面：7.5YR5/8	良好

第７表　第３号竪穴住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土師器 坏	(15.0) ～ <3.6>	1/5残存。内面ヨコナデの後ヘラミガキ。口縁部内外面共にヘラミガキ、外面ヘラケズリ後一部ミガキ。	石英・白色粒中量。	外面：7.5YR4/4 内面：7.5YR5/4	良好
2	土師器 坏	(14.0) ～ <2.1>	口縁部片。口縁部内外面共にナデの後ヘラミガキ、外面ヘラケズリの後ヘラミガキ。	白色粒微量・石英少量。	外面：10YR3/1 内面：10YR3/1	良好
3	土師器 甕	(6.0) <1.8>	底部片。内面ヘラナデ。外面～底部ヘラケズリの後ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：10YR4/2 内面：7.5YR4/3	良好
4	須恵器 坏蓋	(15.0) ～ <2.9>	口縁部片。内外面共にロクロナデ。外面及び口唇部内面に回線が確認される。	白色粒微量。	外面：N5/ 内面：5Y5/1	良好
5	須恵器 坏蓋	(14.0) ～ <2.1>	口縁部片。内外面共にロクロナデ。外面に一部自然釉付着。	白色粒微量。	外面：5Y5/1 内面：N5/	良好
6	鉄製品 鎌	ほぼ完形。長さ12.4cm、幅2.4cm、厚さ0.25cm、重量45.0g　錆が著しく先端部と基部は不明瞭である。基部は折り曲げている。				
7	鉄滓	長さ6.5cm、幅4.7cm、厚さ1.7cm、重量61.6g。				
8	土製品 土玉	完形。長さ2.1cm、幅2.6cm、孔径0.5cm、重量12.4g。ナデにより調整される。部分的に剥落。		礫・白色粒中量。	7.5YR6/4	良好

第８表　第４号竪穴住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土師器 坏	11.9 ～ 3.7	ほぼ完形。内面ナデ、口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後一部ナデ。	礫・石英微量・白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
2	土師器 壺	(13.6) ～ <2.6>	口縁部片。内外面共にナデ。	礫微量・石英・白色粒少量。	外面：5YR4/3 内面：5YR4/6	良好
3	土師器 甕	(17.8) ～ <3.2>	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ、外面ヘラケズリ。	礫微量・石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/3	良好

第９表　第５号竪穴住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土師器 甑	(10.0) <16.3>	胴部～底部1/3残存。内面ナデ及びミガキ、外面ヘラケズリ後ナデ。下端ヘラケズリ。	石英・白色粒中量。	外面：5YR4/4 内面：5YR4/4	良好

（３）遺構外出土遺物（第10表、第20図）

遺構外からも古墳時代の遺物が総計843点出土している。そのほとんどが古墳時代後期の土師器・須恵器で占められるが、僅かに古墳時代中期の遺物も確認される。土製品としては土玉、その他には鉄滓などが出土している。

第 20 図　古墳時代遺構外出土遺物実測図

第10表　古墳時代遺構外出土遺物観察表

遺物番号	種類器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	須恵器 坏蓋	(13.9) － (3.4)	口縁部片。内外面共にロクロナデ。TK43型式。第5調査区出土。	白色粒微量。	外面：2.5Y6/2 内面：2.5Y6/1	良好
2	須恵器 甕	－ － (9.4)	胴部片。内面青海波、外面格子目タタキ。第６調査区出土。	白色粒微量。	外面：10Y5/1 内面：10Y5/1	良好
3	石製品 有孔円盤	完形。長さ1.7cm、幅2.1cm、厚さ0.2cm、重量1.3g。両面・側面共によく研磨されている。表面は平らに研磨され、裏面はやや凹凸が目立つが、その後研磨される。孔周辺が特に凹凸が顕著である。第2号住居跡出土。				

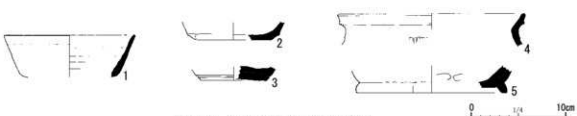
3　古代（第11表・第21図）

（1）概要

遺構は検出されなかったが、遺物は少量出土している。

（2）遺構外出土遺物（第21図）

遺構外から古代の遺物が総計22点出土している。土師器・須恵器が出土し、いずれも細片である。



第 21 図　古代遺構外出土遺物実測図

第11表　古代遺構外出土遺物観察表

遺物番号	種類器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	須恵器 坏	(13.9) － 〈4.5〉	口縁部片。内面及び口縁部外面ロクロナデ。外面ナデ。第1号土坑出土。	長石・白色粒中量。	外面：2.5Y6/1 内面：2.5Y5/1	良好
2	須恵器 坏	－ (8.0) 〈1.9〉	底部1/4残存。内面及び外面上部ロクロナデ。外面下部～底部手持ちヘラケズリ。第3号住居跡出土。	赤褐色粒・石英微量・白色粒中量。	外面：N3/ 内面：N3/	良好
3	須恵器 坏	－ (7.0) 〈1.5〉	底部1/4残存。内外面共にロクロナデ。底部回転ヘラ切り。底部は貼り付けている。第1調査区出土。	白色粒微量。	外面：2.5Y5/2 内面：2.5Y6/2	良好
4	須恵器 甕	(19.8) － 〈3.5〉	口縁部片。口縁部内外円共にヨコナデ、外面平行タタキ。第5調査区出土。	石英微量・白色粒少量。	外面：10YR5/2 内面：10YR5/2	良好
5	須恵器 壺・瓶類	－ (9.8) 〈2.9〉	底部1/5残存。内外面共にロクロナデ、内面一部ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ。高台貼り付けで、外面に輪積み痕が残る。内面に自然釉付着。第1号テラス出土。	白色粒微量。	外面：5Y6/1 内面：5Y7/1	良好

4　中世（第12表・第22～24図）

（1）概要

中世の遺構としてはピット群・テラス状遺構が確認されている。限定された調査区のため、遺構の性格などについては断定できないが、昭和44年度の調査では城郭関係遺構の存在の可能性が指摘されており、今回検出された遺構もそれらに伴う可能性がある。遺物の総数は集計表（第13表）に記載した。

（2）ピット群

第１号ピット群（第23図）

位置：５Ｄ・Ｅ・６Ｅグリッド。重複関係：第３・４号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。一部調査区外。構造：円形のピットで占められ、合計29基検出された。計測値は一括して記した。限定された調査区のため、建物構造の復元は避けた。P14・15、16・17、18・19、20・21などは柱穴が重複していることから、建て替えが行われた可能性もある。遺物：縄文時代の遺物23点、古墳時代後期の遺物11点、古代の遺物１点、時期不明の遺物１点で総計36点を数える。本遺構に伴うものはないと考えられる。時期：平面形態から中世。

（3）テラス状遺構

第１号テラス状遺構（第12表、第22・24図）

位置：４Ａ・Ｂ・５Ａ・Ｂ・６Ａ・Ｂグリッド。第１・２調査区に跨って検出された。重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：直線状。規模：確認された範囲は第１調査区長軸が6.16m、第２調査区長軸が5.41m、第１調査区短軸が3.53m、第２調査区短軸が4.37mである。深さは0.42～0.60mである。主軸は第１調査区がＮ-53°-Ｅ、第２調査区がＮ-59°-Ｅである。構造：ロームを削平して平坦面を構築している様子が確認された。床面はほぼ平坦で、緩やかに立ち上がる。底面からはピット及び溝状遺構が重複して検出されているが、正確な性格は不明である。溝状遺構は深さ0.10～0.28mを測る。ピットの計測値は一括して記した。また、覆土からは破砕貝層が検出され、中世以降にへたの台貝塚本体から流出したものと考えられる。遺物：縄文時代の遺物313点、古墳時代中期の遺物１点、古墳時代後期の遺物94点、古代の遺物５点、中・近世の遺物３点、時期不明の遺物９点で総計425点を数える。中世の遺物としては僅かではあるが常滑の甕が出土しており、本遺構に伴う可能性がある。時期：出土遺物及び平面形態から中世。

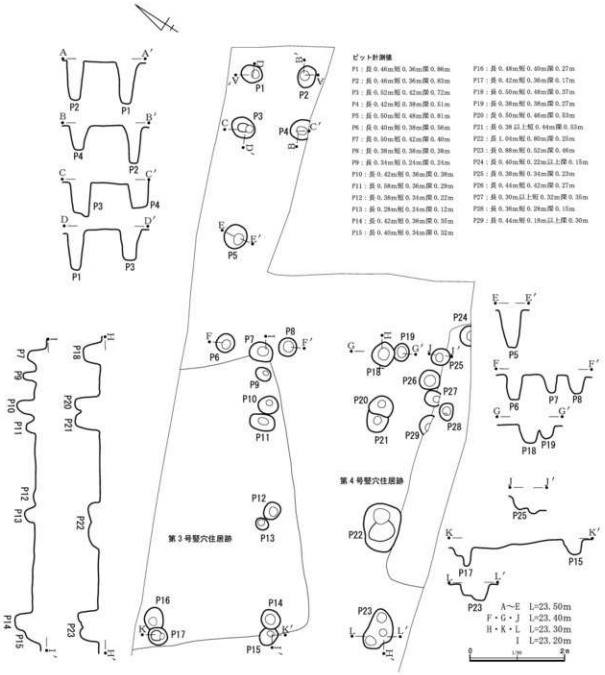
第22図　第１号テラス状遺構出土遺物実測図

第12表　第１号テラス状遺構出土遺物観察表

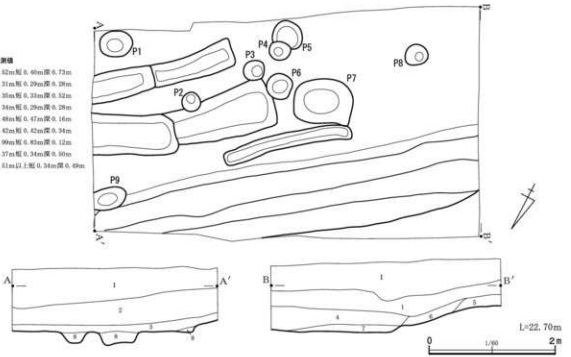
遺物番号	種類器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	常滑甕	－ － (4.2)	胴部片。内外面共にナデ。外面にナデの痕が明瞭に残る。	白色粒中量。	外面：7.5YR3/3 内面：5YR4/2	良好

（4）遺構外出土遺物

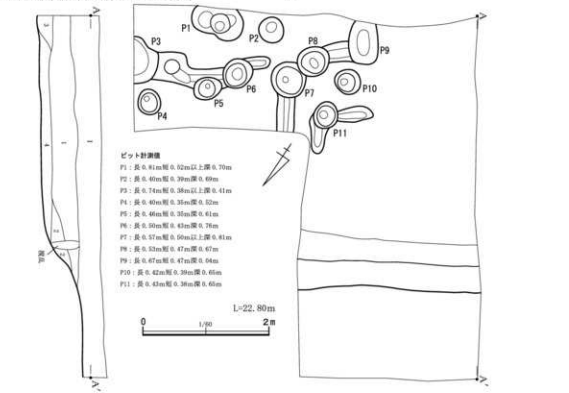
遺構外からも中・近世の遺物が総計18点出土している。陶磁器類で占められ、常滑の甕が６点出土している。



第 23 図　第１号ピット群平面図・土層断面図



1：現表土。
1：7.0YR3/2黒褐、粘性弱、しまりやや強、1～2cmのロームブロック極少量。
2：7.0YR3/3暗褐、粘性弱、しまり強、破砕炭多量、混炭土層。
3：7.0YR3/3暗褐、粘性弱、しまり強、破砕炭極少量、混炭土層。
4：7.0YR3/4暗褐、粘性弱、しまり強、2～3mmのローム粒多量。
4：7.0YR3/4暗褐、粘性弱、しまり強、2～3mmのローム粒多量。
5：7.0YR3/1黒褐、粘性弱、しまりやや強、1～2mmのローム粒多量。
6：7.5YR2/2黒褐、粘性弱、しまりやや強。
7：7.5YR2/1黒、粘性弱、しまりやや強、1～2mmのローム粒多量。
8：－



1：現表土。
1：7.0YR3/3暗褐、粘性・しまり弱、破砕炭多量、混炭土層。
2：7.0YR3/3暗褐、粘性・しまり弱、破砕炭極少量、混炭土層。
3：7.0YR3/3暗褐、粘性・しまり弱、破砕炭極少量、混炭土層。
4：7.0YR3/2黒褐、粘性・しまり弱、破砕炭極少量、混炭土層。

第24図　第1号テラス状遺構平面図・土層断面図

第13表　出土遺物集計表

遺構名				住居										土坑				ピット群		テラス		調査区		総計
				1		2		3		4		5		1		2		1		1				
残存				個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	
縄文	土器	阿玉台式後半・勝坂～加曽利E Ⅰ式古	深鉢		6		5		3		1				1						1		2	19
		加曽利E Ⅰ式			4		1		1		1										2		6	15
		加曽利E Ⅰ～Ⅱ式													2									2
		加曽利E Ⅱ式			11		38		19		21		5		2				1		10		30	137
		意匠文充填系(E Ⅱ式)					2		2														2	6
		連弧文系			5		9		4		1		2								4		11	36
		曽利系			2		2		2												1		1	8
		加曽利E Ⅱ～Ⅲ式			10		22		8		13								1		4		20	78
		意匠文充填系(E Ⅲ式)									1													1
		横位連繋弧線文系(E Ⅲ式)					1																1	2
		無文			4		7		3		3		1		2						1		8	29
		中期後葉			237		352		338		203		20		10				21		289		752	2222
		加曽利E Ⅱ～Ⅲ式	鉢		3				4		5		1										7	20
	石器	磨石			1				1				1											3
		磨製石斧																			1			1
		黒曜石	石核											1										1
			剥片		3		2																	5
	土製品	土器片錘		4		1																1		6
		土器片円盤				1		1																2
古墳中期	土師器	高坏					1														1			2
	石製品	有孔円盤				1																		1
古墳後期	土師器	坏類		3	67	1	28		14	1	3										4		27	148
		高坏			1																			1
		壺類			3		11		4		1										1		7	27
		甕		1	19	1	8		2				6											37
		甑		2	18		2				1		2										3	28
		甕・甑			457		499		139		43		8						10		78		681	1915
	須恵器	坏身					1																1	2
		坏蓋			4	1	2		3														6	16
		壺・瓶類			2																		1	3
		甕			1		2		3												4		2	12
		不明																	1		4		6	11
	土製品	支脚			3	1	2																	6
		手捏ね				1																		1
		管状土錘				1																		1
		土玉		2	1			1												1				5
		鏃						1																1
	鉄製品	鉄滓						4												2				6
		不明																					1	1
古代	土師器	坏							1												3		3	7
	須恵器	坏身							1						1								1	3
		壺・瓶類							1										1		2		6	10
		甕																					2	2
中近世	陶磁器	皿																					1	1
		碗			6				1														1	8
		壺・瓶類																					1	1
		常滑	甕																		3		3	6
		不明			1																		1	2
不明	土器				73		2												1		9		13	88
礫					15		11		2		2								1		9		18	58
軽石					7		2																	9
総計				12	964	9	1012	7	556	1	299	0	46	1	18	0	0	0	36	3	422	1	1625	5012

第３章　附編

附編１　貝層と動物遺体

縄文中期中葉の土坑１基で遺構内貝層を検出し、貝層全てを持ち帰って分析を実施した。当遺跡は縄文中期中葉の大型貝塚として知られ、何度か調査が行われているが、動物遺体の分析成果が公表されるのは初めてである。ほかに、古墳時代から中世の遺構覆土や、調査区全体を広く覆う形で破砕貝を含む土層を検出したが、検討の結果、縄文時代の貝層に由来する二次堆積層と判断するに至った。

１　分析対象・方法

第１号土坑　加曽利Ｅ式前半期（ＥⅠ式～ＥⅡ式詳細不明）の小竪穴に、98×96cm、厚さ26cm の貝層が形成されていた（第４図）。サンプルは、貝層部分の土嚢袋28袋を採取し、まず５袋について水洗～分析の対象とした。集計・計測結果をみたところ、袋ごとの差はごく小さいため、この５単位分を分析対象として記載し、他は簡易フルイ後廃棄した。水洗前の体積は全量で212リットル、分析対象は５単位計40リットルである。なお、保管したサンプルには元の袋番号で記載されており、対応関係（報告№：旧袋№）は以下の通り。１：22、２：24、３：26、４：34、５：41。

古墳時代以降の二次堆積　第４調査区（第２図）と第３号竪穴住居跡と（第14図）でサンプルを採取した。いずれも、59リットルを持ち帰り、８リットル分を水洗・選別し、貝種とサイズをみたところ、周辺各時代との比較から縄文時代の貝層に由来するものと判断された。そこで、それぞれの同定結果を掲載するにとどめた。

貝サンプルは、第一合成社のウォーターセパレーションを使って水洗とフロテーションを行った。使用したフルイの目の開きは５㎜・2.5㎜・１㎜である。貝類は５㎜、2.5㎜メッシュに残ったものを抽出し、集計は５㎜のみとした。巻貝は殻口下端を遺存するもの、二枚貝は蝶番の中央部分が遺存するものを１個とし、二枚貝は左右の多い方をもって最小個体数とした。なお、貝類以外の動植物遺体は検出されなかった。

２　貝類の分析結果

全体で11科11種の貝類を同定した（第２表）。以下の記載は第１号土坑のみとする。

貝種組成（第３表）　イボキサゴとハマグリの２種で全体の96.8％を占め、その他の貝種は、イボキサゴ漁で混獲されたとみられるウミニナ科・アラムシロを除くときわめて少ない。そのほかの特徴を列挙しておく。

①イボキサゴに対してハマグリの割合がかなり高い、②イボキサゴを除いた組成をみると、ハマグリが大半を占める、③シオフキ・アサリはごく少なく、とくにアサリが少ない、④アカニシ、ツメタガイ、マテガイなどがみられない。

計測値（第４表）　イボキサゴは全体の平均が14.39㎜で、13.0㎜～15.5㎜が中心である。ハマグリは全体の平均が33.36㎜で、30.0㎜～35.0㎜が中心である。

第1表　貝類種名一覧

腹足綱	前鰓亜綱	原始腹足目	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ科	イボキサゴ	*Umbonium (Suchium) moniliferum*
		中腹足目	ｳﾐﾆﾅ科	ウミニナ科	Potamididae gen. & sp. Indet.
		新腹足目	ﾑｼﾛｶﾞｲ科	アラムシロ	*Reticunassa festiva*
二枚貝綱		ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ目	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科	マガキ	*Crassostrea gigas*
		ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ目	ﾊﾞｶｶﾞｲ科	シオフキ	*Mactra quadrangularis*
			ﾊﾞｶｶﾞｲ科	バカガイ	*Mactra chinensis*
			ﾏﾃｶﾞｲ科	マテガイ	*Solen strictus*
			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ科	ハマグリ	*Meretrix lusoria*
			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ科	アサリ	*Ruditapes philippinarum*
			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ科	オキシジミ	*Cyclina sinensis*
計			10科	10種	

第2表　貝類同定結果

	第1号土坑						参考(二次堆積)	
種名	1	2	3	4	5	全体	第4調査区	第3号竪穴住居跡
イボキサゴ	1,543	963	2,594	1,464	1,739	8,303	2,129	969
ウミニナ科	20	21	64	34	47	186	15	
ツメタガイ	1	2	5	2		10		1
アラムシロ	6	2	9	5	6	28	14	1
マガキ	1		1			2		
シオフキ	9	13	8	24	17	71	2	
バカガイ	2		2	2	1	7		
マテガイ		2				2		
ハマグリ	267	262	254	318	349	1,450	39	20
アサリ	1	3	2	6	1	13	3	3
オキシジミ						0		1
合　計	1,850	1,268	2,939	1,855	2,160	10,072	2,202	995
水洗前体積(リットル)	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	40.0		7.8

第3表　貝種組成

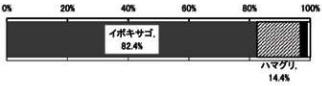
第1号土坑　全体

	イボキサゴ	ハマグリ	ウミニナ・アラムシロ	他	合計
全体	8,303	1,450	214	105	10,072
%	82.4%	14.4%	2.1%	1.0%	100.0%
1	1,543	267	26	14	1,850
2	963	262	23	20	1,268
3	2,594	254	73	18	2,939
4	1,464	318	39	34	1,855
5	1,739	349	53	19	2,160

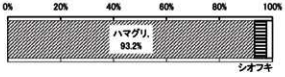
イボキサゴ・ウミニナ・アラムシロを除いたもの

	ハマグリ	シオフキ	他	合計
全体	1,450	71	34	1,555
%	93.2%	4.6%	2.2%	100.0%
1	267	9	5	281
2	262	13	7	282
3	254	8	10	272
4	318	24	10	352
5	349	17	2	368

全体



イボキサゴを除いたもの



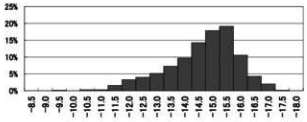
第4表　貝類計測値分布(mm)

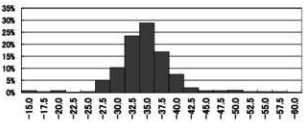
イボキサゴ殻径(第1号土坑)

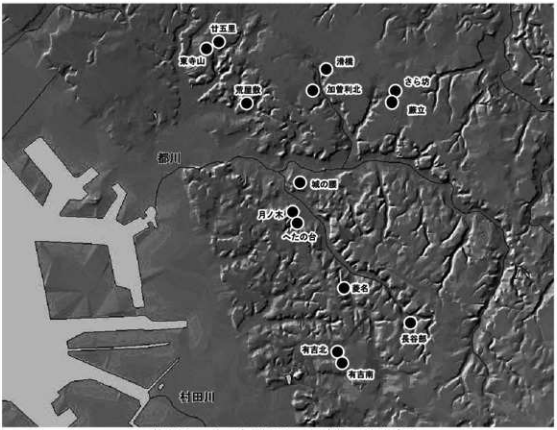
	全体	1	2	3	4	5
−9.5	1					1
−10.0						
−10.5	3	1		1		1
−11.0	3	1				2
−11.5	16	5	1	5	1	4
−12.0	33	3	12	6	3	9
−12.5	40	16	7	5	3	9
−13.0	51	15	12	5	10	9
−13.5	73	18	19	13	12	11
−14.0	97	21	25	15	19	17
−14.5	143	28	33	29	30	23
−15.0	179	28	34	34	40	43
−15.5	191	39	29	44	43	36
−16.0	106	18	16	26	25	21
−16.5	43	5	7	12	9	10
−17.0	20	2	5	5	4	4
−17.5	1				1	
試料数	1,000	200	200	200	200	200
平均	14.39	14.16	14.26	14.57	14.65	14.33
標準偏差	1.25	1.28	1.23	1.26	1.05	1.36

ハマグリ殻長(第1号土坑)

	全体	1	2	3	4	5
−15.0	6	2	1	2		1
−17.5	3		2		1	
−20.0	5	1				4
−22.5	1					1
−25.0	3	1	1	1		
−27.5	38	10	11	7	1	9
−30.0	79	16	14	8	23	18
−32.5	179	37	38	15	49	40
−35.0	221	39	40	13	66	63
−37.5	129	19	25	13	38	34
−40.0	57	14	7	3	14	19
−42.5	15	3	4		4	4
−45.0	5	3			2	
−47.5	6	2	1			3
−50.0	7	5	1		1	
−52.5	3	1			1	1
−55.0	2					2
−57.5	2	1				1
−60.0	1	1				
試料数	762	155	145	62	200	200
平均	33.36	33.90	32.72	31.62	33.74	33.58
標準偏差	5.03	6.31	4.61	5.06	3.68	5.26







第１図　へたの台貝塚周辺の同時期の貝塚分布図

3　考察

当遺跡は支川都川（仁戸名川谷）に立地しているが、村田川水系の千葉寺谷付近の海岸にも比較的近接している（第１図）ことから、中期大型貝塚の貝がどの水系で採取されたものであるかが注目されるところである。今回のデータのうち、貝種組成で指摘した①～③の傾向は、村田川流域の特徴に類似している（樋泉・西野1999）。④は、これだけの試料数からみると異例である。イボキサゴのサイズは中期大型貝塚としてはかなり大きく、ハマグリも大きめである。

以上のように、中期大型貝塚群における資源利用、集落間の関係等を検討するうえで、きわめて興味深い内容であるが、サンプルが１か所のみで、年代に若干不安が残り、都川流域の中期中葉の比較データも乏しいことから、今後、比較データを追加して再度検討したい。

参考文献

樋泉岳二・西野雅人1999「縄文後期の都川・村田川流域貝塚群」『研究紀要19』財団法人千葉県文化財センター　pp. 152-153

附編２　へたの台貝塚平成８年度調査の概要

へたの台貝塚は、第３図に示した通り、過去に幾度かの調査が行われている。今回は過去の調査の中でも未報告となっている、平成８年度に行われた調査について、その概要を報告する。この調査は平成９年の３月３日～３月26日まで送電鉄塔建設に伴うものとして行われ、調査面積は88㎡である。検出された遺構は縄文時代中期の土坑５基と古墳時代中期の竪穴住居跡が１軒である。

１　調査成果

（１）縄文時代

検出された遺構は出土遺物から縄文時代中期中葉の加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期と考えられる土坑２基と中期と考えられる土坑３基の合計５基である。

第１号土坑からは仰臥の人骨が１体（第１号人骨）検出されている。この人骨は土坑の底面に直に埋葬されていた。遺物は出土していない。

第２号土坑からは骨粉が検出された。遺物は出土していない。

第３号土坑の床面付近からは、チャートの剥片が75点まとまって出土している。

これらは角礫を打ち割った剥片で占められ、製品はなく、石器の素材と考えられる。大きさは29.83㎜～68.20㎜を測る。また、床面から僅かに浮いて、仰臥の第３号人骨が検出された。また、第３号人骨に重なりほぼ同様の姿勢で埋葬された第２号人骨が検出された。遺物は加曽利ＥⅡ～Ⅲ式の土器片が出土している。

第４号土坑からは遺物は出土していない。

第５号土坑からは加曽利ＥⅡ～Ⅲ式の土器片が出土している。

その他にも調査区や古墳時代中期の竪穴住居跡覆土から多くの土器が出土している。土器の時期は阿玉台式後半～加曽利ＥⅢ式までの時期幅が確認され、加曽利ＥⅡ式が主体となり、今年度の調査と同様の結果となった。

土器以外の遺物としては、磨石・敲石・磨製石斧・打製石斧などの石器、土器片錘などの土製品が出土している。また、古墳時代中期の竪穴住居跡覆土からは骨鏃が出土している。

（２）弥生時代

遺構外から破片1点であるが出土している。磨消縄文で曲線的な文様を描くことから、中期前半に位置付けられ、東北南部の影響が考えられる。

（３）古墳時代

検出された遺構は竪穴住居跡１軒である。カマドではなく地床炉であることや、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。土師器が出土し、刀子と考えられる鉄製品や不明石製品が出土している。また遺構外からは古墳時代後期の土師器・須恵器が出土している。

（４）中世

常滑と考えられる甕が数点であるが出土している。

今回は概要を報告するに留めるが、興味深い調査成果であるので、機会を俟って詳細な報告を行いたいと考えている。

参考文献

後藤和民1971「千葉市仁戸名町　へたの台古墳群発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第４号　千葉市加曽利貝塚博物館

千葉県教育庁生涯学習部文化課1998『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－平成8年度－』千葉県教育庁生涯学習部文化課

第４章　まとめ

１　縄文時代

縄文時代の遺構としては、縄文時代中期中葉の土坑１基と縄文時代中期の土坑１基が検出された。第１号土坑からは貝層が検出された。へたの台貝塚は都川の支流に位置しているが、貝層の分析の結果、当遺跡の貝種組成は村田川水系で採取された貝種組成に近似することが明らかになった。サンプルが一ヶ所であり、土坑の時期も明確ではないことから今後のデータの蓄積を俟つ部分が大きいが、当時の資源利用・集落関係を考える上で興味深いデータを得ることができた。また、遺構外からも多くの縄文土器が出土しており、その時期は平成８年度の資料も含め、阿玉台式後半～加曽利ＥⅢ式で、加曽利ＥⅡ式に比定できるものが最も多い。これらの土器はへたの台貝塚本体から後世に流出したものと考えられ、へたの台貝塚の形成時期を知るうえで重要な資料である。また、貝塚の範囲は現在、第３図に示したように推定されており、第３号竪穴住居跡に一部重なっているが、今回調査中に検出された貝層は破砕貝層であり、後世に流出した２次的な堆積と考えられる。調査区にも広く破砕貝層が広がり、古墳時代後期の竪穴住居跡や中世のテラス状遺構の覆土となっていることから、後世の造成等で広く流出しているものと考えられ、へたの台貝塚の範囲自体も今後再検討が必要になる可能性がある。

今年度及び平成８年度の調査では、へたの台貝塚の時期・範囲や貝種の組成、埋葬方法、石材の流通を知るうえで貴重な資料を得ることができた。

２　古墳時代

古墳時代の遺構としては、古墳時代後期 TK10型式～ TK43型式期と考えられる竪穴住居跡が４軒、古墳時代後期の竪穴住居跡が１軒検出された。第３号竪穴住居跡では鉄滓が出土し、製鉄に関わるものとして注目される。過去の調査も含めると古墳時代後期の集落跡は台地上に広く展開していた可能性がある。また、遺構は検出されなかったものの、古墳時代中期の土器が僅かに出土し、滑石製模造品も出土している。平成８年度の調査では古墳時代中期の竪穴住居跡が検出されており、古墳時代中期も居住域となっていたようである。

３　中世

中世の遺構としてはピット群が１基、テラス状遺構が１条検出され、遺物としては常滑の甕が出土している。テラス状遺構は台地の縁辺部を削平し、平坦面を構築している。限定された調査区のため詳細な機能の検討は避けたいが、過去の調査（後藤1971）でも城郭関係施設の可能性が指摘されていることから、今回検出された遺構も城郭関係遺構の可能性がある。中世における土地利用を考える上で注目すべき成果である。

遺構は検出されなかったが、平成８年度の調査では弥生時代中期前半の土器が出土し、今年度の調査では古代の土器も出土している。遺跡の分布や土地利用を考える上で貴重な資料である。

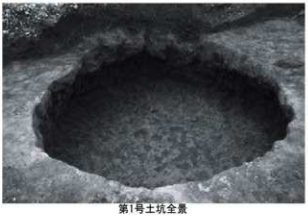
参考文献

小沢洋2008『房総古墳文化の研究』六一書房

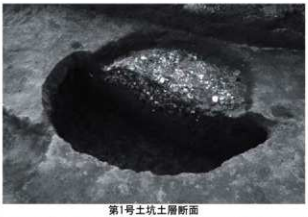
後藤和民1971「千葉市仁戸名町　へたの台古墳群発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第４号　千葉市加曽利貝塚博物館

写真図版 1

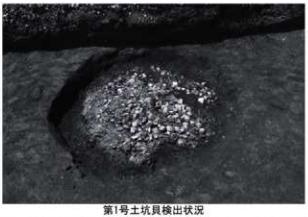
調査前現況



第1号土坑全景



第1号土坑土層断面



第1号土坑貝検出状況

第2号土坑全景

第1号竪穴住居跡全景

第1号竪穴住居跡遺物出土状況

第2号竪穴住居跡全景

写真図版２

第2号竪穴住居跡カマド・貯蔵穴

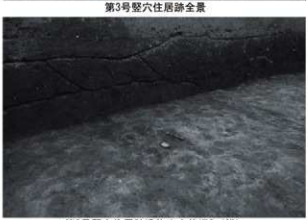
第2号竪穴住居跡遺物出土状況1

第2号竪穴住居跡遺物出土状況2

第2号竪穴住居跡遺物出土状況3

第3号竪穴住居跡全景

第3号竪穴住居跡遺物出土状況1


第3号竪穴住居跡遺物出土状況2（鎌）

第4号竪穴住居跡全景

写真図版３

第5号竪穴住居跡全景

第1号ピット群全景1

第1号ピット群全景2

第1号テラス状遺構全景（第1調査区）1

第1号テラス状遺構全景（第1調査区）2

第1号テラス状遺構全景（第2調査区）

第1号テラス状遺構ピット（第2調査区）

調査終了状況

写真図版４

1号土-1
1号土-2
1号土-3
1号土-4
1号土-5
1号土-6
縄外-1
縄外-2
縄外-3
縄外-4
縄外-5
縄外-6
縄外-7
縄外-8
縄外-9
縄外-10
縄外-11
縄外-12
縄外-13
縄外-14
縄外-15
縄外-16
縄外-17
縄外-18
縄外-19
縄外-20
縄外-21

写真図版５

縄外-22

縄外-23

縄外-24

縄外土-1

縄外土-2

縄外土-3

縄外土-4

縄外土-5

縄外土-6

縄外土-7

縄外土-8

縄外石-1

縄外石-2

縄外石-3

縄外石-4

1住-1

1住-2

1住-3

1住-4

1住-5

1住-6

1住-7

1住-8

1住-9

1住-10

1住-11

1住-12

1住-14

1住-13

1住-15

写真図版６

1住-16
1住-17
1住-18
1住-19
1住-20
1住-21
1住-22
2住-1
2住-3
2住-2
2住-4
2住-5
2住-6
2住-7
2住-10
2住-8
2住-9
2住-11
2住-12

写真図版７

3住-1

3住-2

3住-3

3住-4

3住-5

3住-6

3住-7

3住-8

4住-2

4住-1

4住-3

5住-1

古墳外-1

古墳外-3

古墳外-2

古代外-1

古代外-2

古代外-3

古代外-4

古代外-5

1テ-1